

気高町浜村地区 地域の未来づくり懇談会 開催概要

- 1 日時 令和7年7月22日(火) 18時30分～20時00分
- 2 場所 気高町コミュニティセンター
- 3 出席者 地区12名 市19名【危機管理部長（危機管理課）、経済観光部長（観光・ジオパーク推進課）、都市整備部長（都市企画課、建築指導課）、教育委員会事務局副教育長（生涯学習・スポーツ課）、資産活用推進課、市民生活部長（協働推進課）、気高町総合支所長（地域振興課、産業建設課）】
- 4 テーマ ①気高町コミュニティセンター、気高町体育館の再整備について
②浜村温泉館の今後の整備、温泉街の再生について
③旧旅館の安全性、撤去等について
④浜村のマスタープランについて
⑤浜村地区を含めた防災体制について

5 概要

【地元あいさつ】

今年度から5か年の計画で気高地域未来プランを進めていくなかで、地域では高齢化や教育環境の整備、子育てといった問題を抱えている。そういった全般に向けた今後のマスタープランなどについて本日の会で意見交換をしたいと考えている。浜村地区はこれから人口減少が進んでいくことが考えられるが、それに向けコンパクトシティなど未来に向けていろいろな構想が考えられる。我々としては意見を言いながらも市としての意見も聞きながら前向きで建設的なものにしていきたい。

一方では、近年の激甚化する地震をはじめとした災害に対し、最後には地域の繋がりが大切だと思っているが、自治会加入率も6割を切っているというのが現状である。人と人が助け合う社会を実現することが重要であるので、そういった面でも意味のある会にしていきたい。

【市民生活部長あいさつ】

前回の浜村地区地域づくり懇談会は、平成30年10月に「地域活性化の核となる拠点」をテーマに開催された。

本日のテーマは「これからの浜村のまちづくり」とのことである。浜村地区では令和3年2月に小さな拠点事業として、まちづくりグランドデザインを策定し、特色ある地域資源と温泉をいかしたまちづくりに取り組まれている。本日は、こういった取組を次世代に引き継ぐ、「未来に向けたまちづくり」についての意見交換をしていきたいと考えている。

テーマ①「気高町コミュニティセンター、気高町体育館の再整備について」

【地元】

平成30年の地域づくり懇談会では、市長にも来ていただき、コミュニティセンターのあり方について意見交換を実施した。そこから時間も経過しているので、市から方向性なり現状なりを聞いてから意見交換会を進めたい。

【生涯学習・スポーツ課】

気高町コミュニティセンター等の再整備については、平成30年度の地域づくり懇談会以降、庁内で検討を進めていたが、新型コロナウイルス感染症の影響で検討がしばらく止まっていた時期もあった。その後、令和3年度から協議を再開することとなり、その頃同時に教育委員会で小学校統合整備の話が出ていたことから、そちらと複合化ができないか模索していた。昨年度、小学校の統合の協議が具体的に進んだので、それに伴いコミュニティセンター等の施設複合化も本格的に検討を進めていた。結果としては、小学校建設を最優先に進めるとのことで、複合化は統合小学校と切り離して検討することになった。

コミュニティセンター等の再整備は必要であることに変わりはないので、なるべく速やかに関係課と具体案を作成し、地域と一緒に議論していきたいと考えている。

【地元】

市の財政を考えれば、無茶なことも言えないことはよく分かる。地区公民館は地域のまちづくりの拠点であり、たくさんの地域住民が来られる。安全安心が担保できないような建物に人が集まって活動しており、住民だけでなく職員からも「ここは危険だ」といった意見も出るような状況である。市がどのように再整備の優先順位をつけているかは分からないが、緊急の課題として、要望ではないが実態として伝えたい。

【地元】

ここの会場でよく説明会を開催するが、来られた方から昨年1月の能登半島地震を受けて「ここは大丈夫か」といった意見をいただくことがある。支所に確認したところ検討中ということだが、先ほど生涯学習・スポーツ課も言われたように、なるべく早い時期に検討が進むように何とか頑張っていたきたいと思う。

【地元】

ここは気高町のコミュニティセンターであり、同敷地内には気高町の体育館がある。気高町内だけでなく、青谷も鹿野も含めての中心的な場所になるので、統合小学校と並行し、今後5年10年、20年先の鳥取市西地域のことを考えて、しっかり取り組んでほしい。そうしなければどんどん遅れていくのではないかと不安に思っている。

【資産活用推進課】

本市は現在、公共施設の再配置の推進に向けて取り組んでいるところで、今年度から中学校区単位で検討を進めていこうとしており、今年度は公共施設が比較的多い鳥取市南部地域で住民ワークショップを開催している。先日第1回が終わり、第2回を開催予定である。ワークショップでは、市が作成した再編案を中学生、大学生、住民等で構成されるグループで見ていただく。再編案をたたき台として、良い点や悪い点などを地元と一緒に協議する形である。

今後、気高・青谷・鹿野でワークショップを開催することになれば、たたき台を見ながら一緒に協議を進めていきたいと考えている。

【地元】

市がワークショップを開催して住民の意見を聞くやり方は理解できなくはない。また、市がたたき台を作成して住民と意見交換することも、今までの行政からすれば確かに方法としてあるのかもしれない。ただ、とても時間がかかるかもしれないが、これからの時代はまず地元がどう考えているのか拾い出していく作業が必要だと感じている。

行政が先に案を作ってしまうとそれに引っ張られてしまい、多少の修正はあれど基本的にその案でいくことになってしまう。ましてや鳥取市は大きいので、例えば気高地区だけは特別にこういうことを考えている、浜村地区はこう考えているといった特別なことはできないと感じている。市全体としての基本的な方針があるし、どこの地区にも過疎化や高齢化、少子化などの同じような課題を抱えているのだから、気高だけ特別に意見を聞いたうえで作成し直しますということとはあり得ないだろうと思う。

やり方としては多少時間がかかるかもしれないが、まず地区に話を聞いたうえで、たたき台を作るのが筋ではないかと考える。

【地元】

平成16年に気高町は鳥取市と合併し、そこから一市民として様子を見てきた。合併町村単位での人口は減少し高齢化も進んでおり、今度は整理統合の話が入ってくることは、20年前の町民からしてみれば分かっていたことである。地域住民の意見を聞いて練り合わせながらやりましようといった結果、気高4小学校の統合まで10年が経過してしまっている。市長にも要望したが、「地域住民の要望をしっかりと聞いて、」という言葉が枕詞だった。結果としてこのような状況になっている。

リーダーシップを持って進めていくべき案件と、しっかりと地域住民の話を聞きながら練り上げていく案件とをきちんと精査してやらないと、なかなか前に進まないのではないのか。こういった機会を捉えて地域住民の意見をどんどん聞いていってほしいという思いである。コミュニティセンターと地区公民館が一緒に存在するのは、良い部分も悪い部分もある。地区公民館では、地域住民とのまちづくり拠点としていろいろと行事を開催しているが、コミュニティセンターという縛りのために、地区公民館としてやりたくてもできないこともある。整備統合と言うのであれば、柔軟な対応ができるような姿勢も持ってほしい。

【地元】

このコミュニティセンターは以前中央公民館だったが、市町村合併以降にコミュニティセンターとなった。もともと中央公民館にあった施設が、現状では老朽化でどんどん使えなくなっている。テニスコートも駐車場になり、入浴施設は取り壊されて部屋となり、町民体育館は耐震問題等で使えなくなり、解体せずに閉鎖の状態になっている。気高町の中心施設として、浜村地区以外の瑞穂、宝木、逢坂の人なども活用してくださいと言うのは自分達からすれば都合のよい話である。

この状況なので、コミュニティセンターとしてあまり活用されていない。かろうじて、活性化委員会の活動で地区公民館と一緒に会議などを開催している程度である。それで、活用されていないからコミュニティセンターは不要であるとするのはおかしいと思う。コミュニティセンターとして活用するのであれば、それなりに地域で活用できるものを整備してくればよいが、コミュニティセンターといわれるような施設が整備されてきたかということのようなことはなく、あくまでも地区公民館といわれるところにコミュニティセンターをただ設置したというだけではないのかと感じている。しっかりと整備したうえで活用してくださいと言うのが筋ではないか。

【地元】

今後市としてはどうするのか、コミュニティセンターを廃止して浜村地区公民館になるのか。それぞれの地区公民館があって使っている。昔みたいに一堂に集まって地域行事をしようということは少なくなってきたおり、貝がら節まつりやしょうがぽかぽかフェスタ、文化祭などは町全体でやるが、日々やっていることで言うと、コミュニティセンター利用の9割以上は浜村住民である。こういう使い方はどうなのか。

【生涯・学習スポーツ課】

コミュニティセンターと浜村地区公民館の話が出ているが、どちらも必要な機能を有していると思っている。コミュニティセンターの中に地区公民館が入っていることは、他の地域からするとたしかに特殊な形態であり、再整備となった時に、同様の形態にすることは現時点では考えていない。複数の施設を集約することは基本的な考えではあるが、使い勝手の面で言えば、利便性が良く余分な手間がかからないような整備を考えていきたいと思っている。

【地元】

個人的な意見になるが、コミュニティセンター前には社会福祉協議会があり、建物は昭和54年築である。コミュニティセンターは昭和48年築で、鉄骨や屋根が錆びて非常に危ない。気高町社会福祉協議会の施設は、高齢者が頻繁に使っていて、早く建て直してほしいという声もある。新設小学校が令和13年に開校し、子ども達の教育場所が整備される。最近の流れで高齢者と子どもとの繋がりが重要視されており、一緒にできないかと思ったこともある。それぞれが新

しく建てるとう費用を要するので、これからの教育や高齢化も考えたうえでそのあたりも考えてほしい。

【市民生活部長】

長い間お待たせして申し訳ないという気持ちである。コミュニティセンターや社会福祉協議会が同じような時期に建築されて同じように老朽化しているため、複合化で考えた方がよいという認識でいる。例えば河原町で現在取り組んでいる複合化施設などがある。

先ほど資産活用推進課から説明があったとおり、来年度は本地域でもワークショップが開催される予定なので、そのなかで施設の現状と、どういった施設を複合化すべきかを皆様と一緒に検討し考えていきたい。

【副教育長】

これまでのいろいろな歴史があつてのコミュニティセンターの整備ということが、本日の話を聞いていてよく伝わった。新しい住民ワークショップの取り組みが今年度から始まったばかりである。今後も地域の思いに寄り添いながら、一緒に考えていきたい。

テーマ②「浜村温泉館の今後の整備、温泉街の再生について」

【地元】

浜村温泉館についての現状について、本年6月定例会で一般質問があり市長の答弁を聞いたので状況はおおよそ把握できているが、改めて意見交換をお願いしたい。

【経済観光部長】

平成28年4月の浜村温泉館休館以降、気高地域振興会議や観光協会など地元の皆様とともに「浜村温泉館のあり方検討会」を設置し、今後のあり方について検討を重ねた結果、平成30年3月に浜村温泉館再生プロジェクトを策定した。この計画には、浜村温泉館に貝がら節伝承館や地域コミュニティ拠点施設などの機能を新たに加え、小さな拠点づくりの核として再生し、年間10万人の集客を目標として地域の活性化に繋げていくことなどが盛り込まれた。その後、地元団体を中心に設置した温泉館再生事業会社の設立準備委員会において具体的な検討が進められたが、事業計画や経営の継続性などを理由に資金計画の見通しが立たず、令和2年10月に再生計画の検討を終了した。令和4年度には、民間事業者による未利用財産の活用の可能性を探るサウンディング型市場調査を行ったが、浜村温泉館に対する意見の提出などはなかった。浜村温泉は県内有数の湯量と500年もの歴史を有する温泉である。温泉館もこれまで多くの方に利用されていたが、施設の老朽化に伴う休館以降は安全性に課題を残している。令和5年7月に策定された「鳥取市公共施設再配置の推進に向けた取組方針」では、日帰り温泉は民間施設とサービスが競合しているため、行政による更新はおこなわないことを前提としており、民間活力による施設の利活用が基本的な考え方となっている。今後は、民間活力による施設の活用等を視野に入れつ

つ、地元の皆様のご意見も踏まえながら、施設のあり方を継続して検討していく必要があると考えている。

【地元】

これまで地元からかなり多くの署名や要望が出ているにも関わらず、なぜ進まないのか、実際のところを詳しく教えてほしい。

【観光・ジオパーク推進課】

温泉館のあり方について地元の皆様と議論してきた結果、平成30年3月にプロジェクトを立ち上げることができた。その後、再生事業会社の設立準備委員会まで立ち上げたが、事業の継続性に関して金融機関から了承を得られなかった。コロナ禍で一度地元の皆様との検討が中断し、そのまま地元としての運動体がない状態である。本市でも、コロナ期間中には浜村温泉館の利活用に関するサウンディング型市場調査の募集も行ったが、残念ながら応募に結びつくような結果にならなかった。

現在の公共施設の状況も踏まえて、どういった機能を残していくのがよいのか、しっかりと皆様の意見をお聞きしながら今後の組み立てをしたい。一例として、吉岡温泉は旅館組合や自治会が日帰り温泉を運営している。また、国の補助金を活用し、廃業した旅館をおばけ屋敷として運営し、地域活性化に取り組まれている。我々もその事業について協力や支援をした経験がある。現在は、地域の取組について市が後押しするという考え方になっている。

【地元】

浜村温泉という名前がついているので、活性化委員会でも、観光目的や地域の方が温泉に入れるよう、いろいろな活動をおこなっている。地域の温泉を管理されている各自治会や担当者に集まってもらい、地域の温泉になぜ地域外の人が入ってはいけないのか、もう少し活用できないかというような検討会を20名ほどで行ったこともあったが、「自分達の風呂」という認識のなかで、自分たちが管理している温泉をよその人に入浴してもらいたくないというのが現状で、各地区にある四つの地元の温泉を活用することについては、これといったものは見つかっていない状況である。

【地元】

これまで活性化委員会では、浜村温泉の利活用をテーマとして温泉館や地元の公共浴場を活用できないかとやってきたが、大きな問題として浜村温泉が鳥取市の温泉会計に入っており、温泉の利活用についてはその基準でやっていかなければいけない。例えば住宅で温泉を引いている家が空き家になり、温泉付きの家に入居したいと県外の人から空き家バンクに言ってこられても、前所有者が持っていた温泉利用権は新しい所有者には引き継がれないので、温泉を利用しようとするれば、200万円の温泉利用権を払って取得してもらわなければいけない。温泉施設を設立した

場合も同様である。事業の場合と個人宅の利用の場合で多少の違いはあると思うが、一般人も業者と同じ権利金を払わなければ温泉が活用できないので、先ほどの吉岡温泉の例とは少し異なるのではないかな。

それと、以前から、こういう会議や地元での集まりでは、公共浴場として浜村温泉館を活用したいという要望が出ている。今でも集まればそういった話は出てくるが、地区公民館と同じで何年も経過すると中はどんどん老朽化して利活用が難しいという結論になってしまうのが現状である。活性化委員会としても、浜村温泉館はもう使えないのではないかなという判断をしている。一方で、建物全体は難しくても入浴施設だけまだ使えるのではないかなという意見が出ている。維持が難しい部分は処分して、使用できるところだけを活用していくという方向であれば、先ほど採算性の話もあったが、経費がずっと安くなり、活用できなくはないのではないかな。市が使える部分について住民と検討してくれるなら話をするのだが、ということを活用化委員会で話し合っている。

テーマ③「旧旅館の安全性、撤去等について」

【都市整備部長】

旧旅館については、平成30年に外壁が崩れた後に緊急安全措置として飛散防止のため市がネットを張り、その後経過観察している。所有者に対しては平成25年から指導を続けているが、なかなか進まない状況である。ここ数年は、現在の所有者と少し交渉できるようになっている。

【建築指導課】

建物自体は鉄骨造で、すぐに倒壊ということはないと見ている。飛散防止のためのネットが破れないかなという心配もあるが、設置して7年ほど経過した現時点では、今後20年は使えるのではないかと判断している。所有者に対しては、平成25年から適切に管理するよう指導を続けており、平成30年の外壁崩壊後は少し厳しく指導している。令和5年頃からは所有者と前向きな話ができるようになっており、今後も助言を続けながら、進捗を見守っていきたいと考えている。

【地元】

現状建物自体が朽ちてきており、景観上よろしくない。また、大雨や大風で建物が崩壊して、前の川を堰き止めないかと心配している。市で観察をしていただき、安全措置を取ってほしい。

【建築指導課】

総合支所と協力しながら経過観察をしていく。地元でも何かお気づきの点があれば、情報提供をお願いしたい。その他にも物件に興味があるなどの情報もあれば、お寄せいただきたい。

【地元】

このことについては、浜村自治会連合会の方でも要望を出している。震度5強や震度6の地震が発生しても大丈夫なものか。景観も含めて、管理を続けていくためには経費の問題もあると思うが、一方で住民からはいろいろと聞かれている。今後地震などのことを聞かれた時に、大きな地震があっても大丈夫だと言ってよいものか。

【建築指導課】

確認したところ昭和41年頃に建築確認されており、旧耐震よりも古い基準である。旧耐震の基準は震度5弱で倒壊しない基準であり、現在の新耐震では震度6で倒壊しないという基準である。

南海トラフ地震が発生した場合、本市では震度4から5弱であると推定されていて、その程度であれば何とかもってくれるのではないかと考えている。今後、新しいネットに張り替えなければならなくなった場合、からまった蔦の処分などを含めてさらに費用を要するため、本市としては、1日でも早く解体する目途がつくように考えている。

テーマ④「浜村のマスタープランについて」

【地元】

浜村は温泉資源のまちなので、鳥取市として浜村地域の温泉資源をどう活用するか考えてほしい。浜村温泉館がなくなったことで温泉街の活気もなくなり、外からの観光客も減り続けている。浜村温泉館の復活を再検討してもらえないか。

【経済観光部長】

浜村の温泉の歴史は500年あり、そのような温泉はなかなかない。そこを絶やさないよう地域の資源として有効活用することは、常に頭の中にある。自然資本型産業という地域資源を活かしていく取組を市、県や大学が、地域活性化に取り組む岡山県西粟倉村の企業と一緒に進めている。この企業は、若者を中心としたローカルベンチャーを進めており、そういったことをこの気高町日光地区を中心に取り組み、いずれは鳥取市西地域に広げていきたいと思っている。そのなかで温泉館を活用してもらえる流れになっていかないだろうか、という思いで取り組んでいきたいと思う。

【地元】

人権福祉センターで、毎月2回こども食堂を開催しており、1回あたり200食出ている。青谷や鹿野など近隣からも参加者があり、本当は交通の便がよい浜村でもやりたいという思いがある。そうすることで子ども達だけでも気軽に来られるようになるし、そういったことがより良い子育て支援に繋がっていくと考えている。ぜひ浜村温泉館をクラウドファンディングで募ったり、他にもなにかできることがないか。よい方法がないかをこれからみんなで考えていってほしい。

テーマ⑤「浜村地区を含めた防災体制について」

【地元】

これから人口減少が進んでいくと思われるが、浜村は15集落あるうちの半分が第一次産業を中心とした稲作や漁業で、高齢者が多い。一方で新町では住宅が建設されていて、1区や2区の辺りはもう敷地がない。今後、小学校が建つことで周辺道路が拡張されるが、小学校周辺を含めたまち全体をどのようにしていけばよいか。

地域で防災活動を積極的に実施しているが、町内会での活動にあまり関心がなく、加入しなくてもよいと考えている住民がおり、同じことがゴミ問題などでも考えられる。災害が起こった際には避難所さえ行けば、あとは行政がすべてしてくれるから何もしなくてもよいと考えている無関心な世代が増えてきているように思う。市として、まちづくりも含めそのあたりをどのように考えているのか。

【危機管理部長】

近年災害はどこでいつどう起こるかは分からないので、そういった備えへの必要性は、住民1人1人がしっかりと普段の生活のなかで考えてほしい。先日は、自主防災会が自発的に大学教授を呼ばれ災害に関する勉強会を開催されるなど、浜村地区では防災に関する先進的な取組をされていると認識している。今後もそういった取組が浸透していくよう、行政としてもできることはしていきたい。本日の課題シートの中に、「地区をまたいだ広域的な避難が必要」といった記載があったが、現在市全体では指定避難所が400か所を超えており、一方で地区内に全く避難所がない地域もある。もう少し避難場所を設けたい気持ちはあるが現実的には難しいこともある。例えば気高と鹿野が連携して、一緒に避難行動計画を考えてみようというのは素晴らしい発想だと考えている。住民だけではなかなか難しい部分もあると思うので、それぞれの総合支所が話し合いできることを検討することはとても良いことでもある。ぜひ良いアイデアを出していただき、市民の安全安心の取組に繋げてほしい。

【地元】

鳥取市西地域において、浜村という場所を市はどういう拠点として捉えているのか。今後のまちづくりを進めていくうえでの参考にしたいので教えてほしい。

【都市整備部長】

地域の生活拠点としての位置づけになっている。例えば病院や診療所、ショッピングセンターなどが集中している地域であり、一番の強みとしては鉄道の駅があること。これは温泉を考えなくても、十分に生活拠点となる素地を備えている場所である。駅があるということは、そこに向かってバスも運行しているので、交通の結節点にもなる地点である。便利なだけで人口が増加する時代ではなくなった。先ほど、新町の住宅地が少なくなってきたという話があったが、一方で

本市が進めている、公共インフラが整った場所に人を集めて人口密度を上げ、賑わいを醸し出す「コンパクトシティ」を目指すまちづくりが、地域活性化に繋がると考えている。

【地元】

防災や集落自治なども人口が減って高齢化が進み、集落の維持が難しい時代になってきている。集落にある公民館はまちづくりの拠点となっているが、維持が難しくなってくることを含めて考えると、地区公民館の存在は非常に大きなものである。

コミュニティセンターは教育委員会の役割を担いながら運営しているが、まちづくり拠点としての役割を担っている存在だろうと思う。しかし建築から50年経過しており、同時期に建設された他施設も見直しの時期にきている。先ほど老人福祉センターの話もあったが、あれは気高町総合福祉センターの位置づけとなっていて社会福祉協議会だけの問題ではない。

そこらじゅうに施設を持つことはできない時代なので、必要性和目的をしっかりと整理して地域住民とも今後話し合いの場を設けてしっかり議論し、一日も早く地区公民館の問題に道筋をつけてほしい。小学校の問題がある程度方向性が決まったので、今後は地域のまちづくり拠点になる施設を早急に検討してほしい。我々も返事が返ってくるのを心待ちにしている。地元の協力も必要だと思うが、一所懸命取り組んでいけると思っている。

浜村温泉館の利活用については、現在ある施設データをきっちりと示してもらったうえで一緒に議論していきたい。

温泉の活用策については、本日の意見交換を踏まえ、これまでと違った視点で検討してもらえれば大変ありがたい。浜村温泉は集中管理をしており、資源の保護と有効活用のために地域の方が無償で源泉を提供している。そういう事情を踏まえ、こういう方々の想いにしっかり応えるために検討いただければと思う。

【地元あいさつ】

新設統合小学校が近い将来開校されるが、現在学校統合準備委員会の副会長をしており、木材をどんどん使って建設してほしいと要望をしている。他の小学校同様、鉄骨の建物ができてそこから鷲峰山を見上げても面白みがないし、なによりも気高町らしさがでない。RC構造でもよいと思うが、地元産の木材を使用した建物にしてほしい。

これまでとは違った自治会を目指していかなければいけない。地区の高齢化率が高いので防災訓練のときは名簿を作ってオープンにしている。薬をどこでもらっているかもそうしないとわからない。診療所も6月末で閉院になり、現在町内にクリニックは1か所しかない。行政だけに動いてもらうだけではなく、地域住民や民間事業者も一緒に動いていながらこの町の将来を考えていかなければいけない。

【市民生活部長あいさつ】

5つのテーマに対して活発な意見交換ができた。浜村地区では、まちづくりや防災活動に熱心に取り組んでおられ、みなさまの地域愛が強く感じられた。本市としても、公共施設の再配置の推進や温泉や自然資本を活かしたまちづくりを進めていきたいと考えており、一緒に取り組みを進めていただきたい。